

# 喜楽 独立しました！！



第67号  
発行  
社会福祉法人 結い  
〒703-8255  
岡山市中区東川原18-1 203  
TEL 086-206-7385  
FAX 086-206-2801  
発行責任者  
前田 勝子

## 結い だより

就労継続支援B型事業所 喜楽

所長 早瀬 文香



就労継続支援B型事業所  
「喜楽」として  
大きな一歩を

1990年まだ法制度がない時代、障害がある人たちの働く場所がほしいという要望を受け、林精神科神経科病院が精神障害者共同作業所「結い」のつぼを開設。2002年社会福祉法人結いが設立され、精神障害者小規模通所授産施設を経て2007年に今の場所に「宅配弁当 喜楽」を建設移転しました。30食から始めた「宅配弁当 喜楽」として地域の方々に受入れられ、現在は1日220食のご注文を受けるようになりました。

障害者自立支援法が施行された

2002年度以降、喜楽は就労継続支援B型を行う事業所ワークハウス・わくわく！の従たる事業所として位置づけられ、喜楽の存在が分かりづらい状況になりました。わくわく！は洗濯作業・Yショップ事業、喜楽は宅配弁当事業を営み、法令が違います。今後の事業拡大を考え、喜楽を独立させることにしました。

わたしたちは、障害をもっている仲間の人たちが施設や病院で暮らすのではなく、地域やこの町で自分が働きたい仕事を選び働くために法人を設立しました。

これを機により多くの方に喜楽事業所を知っていただき、新しい仲間を受入れ、みんなのパワーをお弁当の売り上げにつなげ1円でも多くの工賃をメンバーに渡せるよう、職員一同ますます努力精進する所存です。地域の方々に喜んでいただけるお弁当屋さんとして、この地に根差し胸を張って一緒に生きていきたいと思います。

皆様のご協力ご指導ご鞭撻をたまわりますよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# Yショップ みんなで行って来ました～

## 2022年 秋・冬 ヤマザキ展示会 in京都



ヤマザキ展示会に参加しました。  
ワークハウス・わくわく！では、就労支援事業としてヤマザキ「Yショップ」を林病院の中で運営しています。  
この度、ヤマザキ「Yショップ」のお招きがありメンバー6名、職員1名でヤマザキ「Yショップ」の展示会に参加するため京都パルスプラザへ行ってきました。

Xmas販売をめざして！！



展示会は3年越しの開催ということで会場にはたくさんの方がおられました。  
会場内ではYショップ林病院店を担当してくださっているヤマザキ「Yショップ」の会場の岩田さんの案内のもと、新作パンや今年のクリスマスケーキの試食、店頭レイアウトの仕方や陳列方法、パッケージのリニューアルなどの説明をしていただき、勉強になりますね」と言われたメンバーさんもおられました。

終了後の岩田さんとの交流では「今日どうだったか」「今後頑張りたいこと」を1人一言ずつ発表してもらいました。とても楽しかった」

クリスマスケーキを頑張って売りたい」商品棚にLEDライトを設置するのがすばい」今日試食した商品の

会場内の撮影は禁止で見ることができず残念ですが、Yショップ林病院店の今後にご期待ください。

味をオススメしたい」など前向きな意見が多く聞かれました。



### 結い後援会への新規加入と継続のお願い

私達は、障害を持って生きていかなければならない人々へ、温かい行政と財政支援を要求するべく、今後も努力し続けます。しかし、私達のみでは微々たるものです。ぜひ「結い」後援会にご加入いただき、私達の活動を支援してくださいませよう、よろしくお願い致します。

また、2022年度分の会費未納の方につきましては、継続してご協力いただけますように何卒よろしくお願い申し上げます。

<振込先> 郵便振込口座 01360-0-57757  
社会福祉法人「結い」後援会  
(個人：年1口 千円 団体：年1口 3千円)

# 「暑いあつい夏をのりきって！」

アンケート結果

今年の夏の暑さはすごかったですね。わくわく！・喜楽の利用者の皆さんに聞いてみました！！

## ① 何を食べると元気が出ましたか？

- ・ピザ・アイス・焼肉・たこ焼き・お好み焼き
  - ・唐揚げ(T.T)
  - ・豚肉・おにぎり
  - ・スーパーカップ/バニラ・味噌ラーメン(N.N)
  - ・野菜を食べたこと・食事と睡眠(T.T)
  - ・うな重(A.N)
  - ・ご褒美的な食べ物(孝)
- ・ガリガリ君・喜楽の弁当・山本さんのスープ(K.M)
  - ・肉系の物・アイス(T.M)
  - ・うなぎ・冷たい飲み物(K.I)



## ② 大変なことは何でしたか？

- ・手が痛い(T.T)
  - ・やる気がなくなる
  - ・言葉使い(N.N)
  - ・暑い夏をのりきったこと(T.T)
  - ・ハンカチで何回も顔を拭きました(A.N)
  - ・暑い日が続いたので暑さ対策が大変でした(孝)
- ・自分の部屋の温度設定・お風呂が暑かった(K.M)
  - ・書いてるまゆが汗で消える(T.M)
  - ・暑い日はクーラーをつける
  - ・暑いときだったので親の法事が大変だった
  - ・エアコンの壊れた車で配達したとき
  - ・暑さで体調が悪くなり大変でした(K.I)



## ③ 暑さをどうやってのりきましたか？

- ・アイスを食べる休憩
  - ・お茶(T.T)
  - ・睡眠
  - ・毎日からだに気をつけて休まないこと(T.T)
  - ・水分補給(A.N)
- ・ひらたすら冷房の効いた部屋にいた(K.M)
  - ・スポーツドリンクをしっかり飲む(T.M)
  - ・クーラーの温度調節・気合
  - ・早めに職場につき、休憩して仕事に入る
  - ・面白いテレビを見る 大河ドラマなど(K.I)

## ④ 困ったときはどうしましたか？

- ・人に相談します
  - ・職員に言います(T.T)
  - ・しよがないと思ってあきらめる
  - ・計算を間違えた時メンバーの人に聞きました(N.N)
  - ・頑張ったら工賃がいただけること(T.T)
  - ・手伝ってもらった(A.N)
  - ・そんなに困ることはなかった(孝)
- ・職員・メンバー・母にも助けもらった(K.M)
  - ・体がだるくてビタミン剤を飲んだ(T.M)
  - ・けがをして病院に行った
  - ・友人に相談
  - ・体調が崩れた時に早く薬をのめばよかった(K.I)

## ⑤ 嬉しかったことはありましたか？

- ・気の合う仲間と話すのが嬉しい(T.T)・友人の支え、励ましの言葉
- ・アイスコーヒーが美味しかった
- ・買い物のYショップ嬉しい(N.N)
- ・仲間で助け合ったこと(T.T)(A.N)
- ・この夏はボーナスが出たので嬉しかった(孝)
- ・ほめてくれること・時給が上がったこと



皆様お疲れさまでした



### 就労継続支援B型事業所

ワークハウス・わくわく！

所長 黒田 博美



新たにワークハウス・わくわく！の所長に就任いたしました黒田博美と申します。

2011年に入職、宅配弁当屋喜楽に3年勤務した後、2014年に林病院内で運営していた喫茶ローザが、山崎製パン株式会社社のフランチャイズであるYショップへと運営形態を変えることとなったことを機にワークハウス・わくわく！に異動し、現在8年が経過しました。

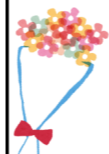
振り返れば私が入社して以降の10年だけを見ても、様々なことが起こりました。特に2020年から始



まった新型コロナウイルスの感染拡大は、新たな変異ウイルスの出現に今なお感染は納まらず、多くの方が苦しめられています。ワークハウス・わくわく！でも職員や利用者さんの感染が起きるたび、事業所全体で一丸となって乗り越えてきました。中でも後援会、ご家族の皆様にはたくさんのお励みのお言葉やご協力を頂き、事業所運営を止めることなくここまで来ることができたと考えています。本当にありがとうございます。

社会福祉法人結い設立当初から働くことで1円でも多くの収入を！」地域で自分らしく暮らしていくその役割を受け継ぎ、そして誰もが混ざり合い一緒に暮らしていけるような社会であってほしいという自身の願いも込めながら、ワークハウス・わくわく！に集う皆さんが、自分らしく互いに育ちあえるような職場を目指し奮闘してまいります。

まだまだ勉強不足もあり、引き続き皆様のお力をお借りする場面も多々あるかと思えます。ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



## きょうせれん 全国大会

1400人が東北・いわてに集結！

9月30日(金)・10月1日(土)の二日間、岩手県陸前高田市の夢アリーナたかたをメイン会場にきょうせれん第45回全国大会in東北・いわて」が開催されました。

全国各地から障害のある当事者300人を含む1400人が参加しわくわく！から2人が参加してきました。

### 大会1日目

オープニングは素敵な音楽と、利用者フオーラム 盛岡さんさ踊り」公開特別シンポジウム ナーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」を掲げる陸前高田市の地域づくりから多くを学びました。

きょうせれんが作成した映画 星に語りて」を観て、感動した参加者

の方からは「もつともつと多くの人に観てもらいたい！」との声が聞かれました。

### 大会2日目

特別分科会では、この11年の支援活動を振り返り、今後の大規模自然災害への備えを深め合い、沿岸地域を見学し学ぶ5つの視察観光プランでは、大勢の利用者が参加しました。利用者交流を含めた14の分科会では、活発な意見交換が行われ、来年は埼玉で会おうね」という会話も交わされました。

400人の地元ボランティアの皆さんに大会を支えていただきました。すべての関係者の皆さんに深く感謝申し上げます。

